

## 北海道新幹線並行在来線対策協議会 第10回後志ブロック会議 議事録

日 時：令和3年1月1日（月）10:00～11:00  
場 所：後志総合振興局 2階講堂

### 1 開 会

### 2 挨拶（交通企画監）

### 3 議 題

#### （1）交通モード別の収支予測について 事務局から資料1について説明。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

ただ今説明いたしました、鉄道の場合の初期投資、JR譲渡資産や大規模修繕などに要する費用については、仮定ではありますが第三セクター鉄道を運行すると決定した場合においては、道南いさりび鉄道の例でもありますけれども、実際に3年から5年前に開業準備室というものを設けて、そこに道と市町村とか、JRから派遣をいただいて、数年かけて資産を整理することになります。その方向性が決まっていない現段階では、JR北海道にお願いする作業にもおのずと限界が出てくるので、現時点では、これが最終的な数値として、ご理解いただきたいと思っております。

地域交通の確保方策として、第三セクター鉄道、バス運行、三セク鉄道+バス運行、この3つのパターンにおける収支見込みについては、これをもって最終報告とさせていただきたいと考えておりますが、ただ今、ご説明させていただきましたけれども、内容についてご質問等があれば、ご発言をお願いします。

##### 【ニセコ町長】

住民との協議では、これまでいろんなご意見がありますが、上下分離のご意見も結構強いです。上下分離については下を国が持つことは基本的にあり得ないと伺っている、ですから、現状の中で北海道が単独で下を持つことはあり得ないという解釈でよろしいかどうか、お伺いしたいと思います。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

一般論でしか答えられないですけれども、JRが経営分離することを道と市町村が国土交通省とお約束をしているということを考えますと、上下分離で下を国が持つということは、現行制度では難しい。

また、道内では、鉄道の問題は、並行在来線を含め、様々なJRの問題を抱えていまして、この中で道庁としては、上下分離で下を持つという考えはないということを道議会で知事から表明していますので、なかなかそこは難しいのではないかと現段階では思っています。

##### 【余市町長】

財政的な面での整理の質問ですが、現状、JR北海道は赤字を経営安定基金の運用益で一部、半分ぐらい補てんしている現状がありますけれども、この路線の赤字と経営安定基金の運用益との関係というのは整理されているのでしょうか。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

難しいですね。我々、道や市町村の地方交付税で算入されるのと同じように、どこに何を使うかは明確ではありませんけれども、JR北海道は運賃収入と経営安定基金の利ざやで収支が成り立っている以上、そのいずれかがこの路線の赤字を補てんしているという言い方しかできないと思っております。

## (2) 余市・小樽間の個別協議について

事務局から資料2について説明。

## (3) 今後のスケジュールについて

事務局から資料3について説明。

### 【北海道交通企画監（座長）】

沿線自治体の皆様には、既に町民への説明会を開催するなど、協議が進んでいると理解しています。また、コロナの影響が落ち着いてきているとはいえ、地域での協議がなかなか進めづらいつらというお話も伺っておりますので、まずは、「年内を目途に地域交通の確保方策の絞り込み」、そして、「令和4年の早いうちに決定する」ということでまとめていきたいと考えています。

なお、鉄道を維持する場合について、これをもし決定するということであれば、経営計画を作るとか、携わる要員を確保するとか、それから、JRからの譲渡資産をしっかりと精査するなどの様々な作業が必要になります。

また、バスにするにしても、今、車両を買うというのは簡単な話でもないので、しっかりどういう路線にして、どういうバスを買うのか、しっかり検討しなければなりませんので、これについても何年もかかるものなので、やはりどちらの方向にするにしても、1日も早く決定することが、次の地域交通の確保には重要だと考えております。

それでは、沿線の首長さんから一通りお願いしたいと思います。今回は、長万部町長から反時計回りでお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 【長万部町長】

最初に発言するのは非常に重い発言になるのですが、今月には3ヶ所で住民説明会を含めてお話し合いをさせていただいて、住民の意識をしっかりと受け止めた上で、方向性を確認していきたいというスケジュールで動いています。

事務的には今年の5月からアンケート調査、乗降客数の調査、そして町の広報誌で紙面を割いて連載をしている段階で、その他にも町民の皆様方、また鉄道利用者の方々からも賛否両論のご意見を含めて、それらを広報に掲載して町民の方々にお知らせしながら、18日に2ヶ所、19日に1ヶ所、3ヶ所での住民説明会で町の考え方を報告しながら、最終的に議会にお話をして結論を得ていきたいと考えております。

### 【余市町長】

余市町の場合は住民向けの説明会を11月19日に予定しております。その場で余市町民を集約する形になっています。この問題、各自治体で思惑が違いますし、これがどうなるかによって、町の計画が変わってくるという観点から、早めに進めていかなければならないと思っています。

他方で、個別協議をしていただいておりますけれども、余市・小樽間に関しては、新たな論点含めて、ちょっと私の方で考えているところです。例えば、カーボン・オフセットといいますか、温室効果ガス排出削減の観点から、鉄道の再検討、見直しが行われていたりということもありますし、大きな札幌圏として考えた場合の交通維持という観点、私の中で考えていたりしますので、そういう様々な要素を踏まえながら、もちろん収支確保できることが前提でありますけれども、内部でも検討しているところです。いずれにしても、スケジュールに関しては11月19日の説明会を待つということでございます。

### 【仁木町長】

本町は先般、情報提供ということで、各地区の住民説明会を行いました。いただいた数字をお示しすることしかできなかったわけでありまして、なかなか議論が深まりづらいつらというのが本音であります。というのは、この後、二転三転というケースになると、なかなか地域住民の方々も議論がしづらいつらというのは事実なわけですね。というのは、今後、余市・小樽間がもし仮にまた新たな展開になった時に、地域住民が抱える意見というのは、また変化が出てくるというのは

致し方ないことと考えております。というのも、先日の衆議院選挙の際にも、並行在来線についてのいろんな意見が出ましたけども、今後JR北海道が直結してやるという話になりますと、また地域住民の感情として、余市・小樽間でできるのであれば、仁木もできるのではないかと淡い期待を持つというのも事実でありまして、その辺、流動的、まだ話が決まらないと、どうしても地域住民を説得しづらいとか、理解しづらいということが本音であるということが、先般の地域住民説明会を経ての感想であります。

ただ、今後、12月までにある程度方向性決めなければならないという中で、期限はもう、倶知安駅の新幹線の関係で、建設しなければいけないということが確定していますので、その中で、今の段階で議論が深まらなないと、このままずっとずれ込んでしまうと、新幹線建設にも影響が出てしまうのではないかと、我々懸念していることでもありますので、ある程度の方向性は早い段階で決めなければならないというのが、私達、町の考えということでもあります。

### 【共和町長】

スケジュールについてはスピード感を持ってということで、このスケジュール感で町としてもしっかりと取り組んでいきたいという思いでございます。11月27日、28日に4会場で、町民の皆様にも資料をもとに説明させていただきたいと、私の考え方もしっかり申し述べさせていただきたい。議会の皆様にも、協議会でこういったスケジュールでやって、12月の時には議会の意向も示していただきたいとお願いをしておりますので、どういう方向になるかは別にして、そういった方向性を示していきたいと思っております。

一つ確認したいですけど、余市と小樽のところを鉄道にした時に大きな負担になりますが、長万部から仁木までがバスを希望した時に、鉄道の部分の負担も他の町村はするのかどうか、全くなくていいのか。というのは余市で乗り換えすると、余市にお世話になるわけですが、私達利用者は、ですから、そういった面では、全く負担しないのもどうかなという思いもしながらも、ここが大事なところでありまして、全く負担しないでもいいというのであればこれを示せるんですけど、負担割合は別にして、負担していかなければならないということであれば、そういう説明をすると町民の皆さん方は、いやいや小樽までバスでないとダメだ、そういういろいろな話になるので、仁木町長が言ったように、そこの方向性は少し決めていただきたいなど。

個別協議は今のお話ですけど、それぞれの町村の負担について、私が確認したらまだそういうところは、負担するかどうかは決まってないという話を伺ったものですから、ここはしっかりと決めていただきたいという思いでございます。

それ以外は特にないので、このスケジュールで進めていきたいと思っております。

### 【倶知安町長】

まずは急ピッチで協議会、幹事会、道の職員の皆さん、ここまで資料を整理していただいたということに関しまして、改めて感謝を申し上げたいと思っております。これから、私達住民説明だとか、いろいろな場面で、この資料を活用せざるを得ないというところがございますので、もし足りない部分があればまたご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。

それと、現在、新幹線倶知安駅の周辺整備について、町内の住民の皆さんと一緒に議論を重ねているところでございます。大変厳しいです、様々な部分で時間に追われながら、いろんな知恵、後悔しないような形で、描いていく大変さというのをしみじみと感じている毎日でございます。

そうした中で並行在来線の存廃の結論、これによって、大きくまちづくり、周辺のインフラ整備も変化が大きくなるということがございます。これにつきましては、前回のブロック会議等でも、皆様にもご理解ご協力をお願いをさせていただくということで、発言させていただいたわけでございますけれども、倶知安駅周辺整備を着実に進めるためにも、やはり1日も早い方向性の決定を望んでいます。改めて皆様にご協力、ご理解をお願いしたいと思います。

こう申し上げてばかりいると、急げ急げということで、一点張りに聞こえてしまいますけども、なので大変心苦しいわけでございますけども、やはり将来に向けて、北海道新幹線札幌延伸までに何を大切にしなければいけないのかをしっかりと考える必要があると思っております。今、時間がないとは言いながらも、札幌延伸が決まった時点で、どれだけ時間が経ったのでしょうかという

ことも含めて、今始まったテーマではないわけでありますので、そういった部分で実際に賛否をはっきりさせようというのが今だと思っております。

私達の仕事、知事を先頭に、この沿線、首長達を中心に、次の世代に未来をどうやって繋いでいくのか、どうやってバトンタッチしていくかということがまさに求められていると思います。小手先で数年間維持できれば良いというような形ではないテーマと思っております。ですから、大変選択肢というのが厳しいものになるわけでございますけれども、いかに公共交通の持続性というのをしっかりと持った中で、どうやって公共交通を育てていくのかというのをこの機会に皆さんでしっかりと捉えた中で判断していくことが大変重要だろうと思っております。

収支の関係もそうですけど、必要性も含めて、その辺住民にご理解をしていただく、という作業がこれから来ているのかなと思っております。皆様のご理解のほどよろしく申し上げます。

#### 【ニセコ町長】

大変なご努力で数字が出てきて、住民の皆さんと議論する素材ができたということで、目標は目標として、これから住民と議論していきたいと思っておりますので、多少幅をもって進めていただければありがたいなと思っております。

資料で質問しようと思っておりましたのですが、資料の中で連節バスを導入する、資料2-2の中にありますけど、例えば、余市から旅客が増えるので、余市までは1車両で、余市で連結して小樽に向かうということが可能な仕組みの連節バスを導入という理解でよろしいのかどうか。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

現行の日本にある、いすゞ自動車などの作っているバス、それから、ドイツのメルセデス・ベンツで作っているバスを見ますと、途中で切り離したりするのではなくて、最初から連節されたバスを導入するかどうかの判断ということです。

#### 【蘭越町長】

蘭越町としては、本日3パターンの最終資料ができたこと、これまでも住民には周知しておりますが、これに基づいて本格的な住民説明会をこれから11月後半、12月上旬、町内数箇所で行おうと思っております。

前回も私からお願いしたのは、非常にこの並行在来線問題については住民も関心が高いです。その中で、いろんな資料を提供して、いろんな住民の意見も聞いて、そして、判断をしていくということも、私は必要ではないかと思っております。

ですから、スピード感を持って努力はしていきますけれども、その中で、やはり短時間でというのは拙速だという声もあります。ですから、今回、私は説明をして、こういう考え方があるということをお話して、今日もいろんな案が出ていますし、できればそういうことを早急に事務局に出たものをお伝えして、協議会でこういう形はどうかということ聞いて、その中で判断していくこと、住民に資料提供していくことも必要でないかと思っておりますので、12月で全て決定というよりは、少し幅を持たせた協議の期間をお願いしたいと考えています。

#### 【黒松内町副町長】

町長が入院中のため、代わりに出席させていただきました。本町としても町長が入院する前に、議会の行政報告だとか、広報誌による住民への周知、また、定例会での議員からの一般質問等で、ある程度町長の考え方というのをお示しできているところかと思っております。本日このような資料をいただきましたので、町長不在の中でも、住民説明はしなければ、このスケジュールには間に合わないのかなと思っております。ただ、私にそれだけの力があるかどうかは心配ではございますので、少し余裕があればというのが本当の気持ちではございます。

ただ、私達もこれから説明をしていくわけでございますけれども、一つその中で、バス転換もあり、黒松内町と蘭越の間というのは、路線バスも現に無いわけであります。そういう中では、そこは本当に確保されるのかということころは、住民からも強く聞かれると思いますので、その辺は北海道の方で、必ずそれは確保できるんだということは、私もそのように言っていきたいと思

っておりますので、よろしくお願ひしたいと。期間も短いわけでございますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

#### 【小樽市長】

資料を作成いただきご苦労様でした。感謝申し上げたいと思います。それぞれ、住民説明会のお話されておりましたけれども、私ども小樽も11月に3回開催することになっております。塩谷と蘭島、その地区で2回開催するのと、市全体を含めてということで計3回を11月に開催するというのであります。

12月には第4回定例会がありますけれども、振り返ってみますと、並行在来線の問題は土地柄もありますけど、市議会でご議論されてきた経過がございませんので、3回の住民説明会で得た意見によっては、市議会の方からも様々な意見が新たに出てくる可能性もあるのかなと思っておりますけれども、その辺を含めておいていただければと思っております。

方向性をこのスケジュールに沿って進めていただくということはよろしいのかなと思っておりますけれども、それぞれの首長が、全体の費用は出ていますけれども、今度はそれぞれの自治体がどれくらい負担するのかというのは、これから議論になってきますので、その時にしっかり対応できるような形でご準備の方はお願いしたいと思っております。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございました。今日の資料をもって、住民、議会に説明するというので、まずはやっていただきたいと思いますが、やはり交渉ごとなので、我々が資料の中で想定していない課題や疑問点が出てくる可能性が十分に想像できるので、そういうものがもし出ましたら、我々に議事録を送っていただいて事務局の方で再度、その疑問点に対する答えができるかどうかは別として、何らかの説明をしていかなければいけないと思っておりますので、まずはその作業をさせていただきます。

それを受けて、全て解決できるということであれば、やはり12月に一定の確認をしていくべきだと思いますし、まだまだ積み残しだという重要な課題が出てくれば、皆さんに相談しながら、今後の日程を決めていけば良いのかなと、そこは柔軟にやっていけば良いと思っております。

その上で、負担の話も出てきましたが、一定のモードを選ばないと負担の話になかなかいかないと思っておりますが、これまでの全国の経過などを見て、こんな負担の仕方がありますというようなことはお示しできると思っておりますので、そこはお示ししていきたいと思っております。

それから、余市町からありました広域交通の関係は、このブロック会議とは別に、公共交通計画の策定というのを、後志全体でやらせていただいておりますが、道央圏につきましては札幌市が中心となって、小樽市も入っている広域的な計画があります。そのの接点に小樽市が入ることになっているので、我々、小樽市と話し合いながら、札幌圏の広域交通をどうしていくか、あわせて検討していきたいと思っております。

#### 【余市町長】

鉄道の話について、国交省に鉄道事業課という部署がありますけど、私の官邸時代の同僚が今、課長なのですが、鉄道の話をする時に、国交省を巻き込まないのはなぜか、という素朴な疑問があります。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

経営分離に同意をして、現在の制度の範囲内で運営することを基本にやってきました。町長が何か鉄道事業課に対して、現行制度以上、何か聞き出したいというようなお話であれば、私が出席の依頼をしても構わないと思っておりますが、何か質問とかございますか。

#### 【余市町長】

鉄道事業課の職務範囲というのは、危機に瀕している鉄道の維持を見越した話ですとか、地域の足の確保の話なので、まさに今やっている話ですよ、というのが一つと、今JR北海道に対

してのファイナンスの支援っていうのを国交省が追加で支援をしているのと、この赤字路線に対する割合の整理とかもできてないということなので、そういう主にファイナンスの面から国交省の新たな制度、補助金も含めて、国の国交省、主管官庁も含めた方が良いのではないかなと思った次第です。

**【北海道交通企画監（座長）】**

言われているのは、今のJ R北海道に対する支援内容について、改めてお伺いしたいということでしょうか。

**【余市町長】**

今とそれ以外の部分も。

**【北海道交通企画監（座長）】**

そういう趣旨でございましたら、依頼をしてみたいと思います。鉄道局になるか、北海道運輸局になるかは別として、国土交通省にはお願いしたいと思います。

**【ニセコ町長】**

今、知事を先頭にゼロカーボンということで頑張っていただいて、感謝していますが、鉄道の気候変動に向けての価値はよく言われておまして、もし、バス転換になった場合、環境に優しいバスというものが必要な気がするのですが、具体的な調査などありましたら教えていただきたいのですが。

**【北海道交通企画監（座長）】**

まだ勉強中ですが、環境に対応したバスはいろいろあります。例えば、ハイブリットバスだと、いわゆる2050年に目標としているものに該当するのかどうか含めて、これから水素エンジンとか、様々な可能性が出てきますが、非常に高価です。現実には、明日からやろうとする時にそれを導入できるかっていうことを含めて、検討していかないとならないと思っています。今、勉強中なので、また何かあれば報告したいと思います。

それでは、今日の資料をもって、まずは議会、地域住民にご説明いただいて、その協議状況を次回、協議会の中でご報告いただきたい、できれば、方向性を確認できればと思っておりますので、よろしくをお願いします。

**4 閉 会**